

# 勉学の旗 (高須中学校だより)

平成28年7月15日号 高須中学校長 山口和久



## 車いすテニスの二條選手をお招きして

7月8日(金)の午後、車いすテニスリオパラリンピック日本代表選手の二條実穂さんを本校にお招きして、講演会と車いすテニスの体験会を開催しました。

9月のパラリンピック大会を控えているにもかかわらず、午前中の高須小学校での講演会を終えたあと、昼食もそこそこに本校に入った二條選手は、簡単な挨拶のあと、講演会や体験会の準備にとても入念に厳しく臨まれました。でも本番の講演会や体験会は華やかで、その準備の様子を表に出しません。多分、ものすごい練習をしているにもかかわらず、それをひけらかすわけではなく、おしゃれでかっこよいのです。スポーツに必要な「技術」「体力」「メンタル」をバランスよく徹底して鍛え、かつ感謝の気持ちを忘れません。彼女の言葉の中で「私は、たくさんの方に支えられながらここまで来ました。リオパラリンピックでは、自分を支えてくださる方々に感謝しながら競技をしたいと思います。」という言葉はとても印象的でした。

人間は人から支えられっぱなしということは絶対にありません。「人から支えられている」と感じる人は、必ず人を支えています。多分、彼女の生き様が多くの人たちに元気と勇気を与え、多くの人を支えているのだと思います。

改めて、人をコントロールすることはむずかしいことです。でも、自分をコントロールすることはやろうと思えばできることです。人から支えられることは難しいですが、人を支えることはすぐにでもできます。そして、人を支えようとしている人は、自然とたくさんの人から支えられるようになるのだと、彼女を通して実感しました。

パラリンピックでの二條選手の活躍を、彼女から高須中学校に贈られたTシャツを独占して着て、ぜひテレビで応援したいと思います。



〔二條選手のTシャツ(校長室)〕

## 生徒の活躍を目の当たりにして

中体連夏の大会が本格的に始まり、残念ながら区大会で敗退した部活動では3年生の引退が決まりました。でも、どの部もどこかで必ず負けて3年生は引退するわけですから、それがどの段階であろうが、大きな問題ではないと私は考えています。緒戦で敗退してしまいましたが、ある部の試合は本当に感動的で、クールな私が思わず熱くなって大きな声で応援してしまいました。試合後、私を見つけてチーム全員が挨拶に来てくれた時に、言葉が出ずに「ナイスゲーム!」としか言えず、拍手しかおくれませんでした。でも、その瞬間は部員がベストを尽くしてくれた瞬間だったと感じました。試合には負けましたが、とても幸せな瞬間でした。

また、部活動以外でも7月2日(土)には「第41回北九州市青少年育成大会」が若松市民会館で開催され、本校生徒を代表して3年生の大隅安里さんが、数百人の方々に前に、素晴らしい意見発表をしてくれました。「なかなか素直に言えない『ありがとう』や『ごめんなさい』」また、「温かいご飯が食べられること、学校で勉強できること、友達と何気ない会話ができること、そんな日常に感謝しなければならない」など、日頃は照れくさくて言えない気持ちを、本当に素直に表現してくれました。

授業では、先生方が仕組んでくれる「小集団での活動」が絶好調です。6月27日より本校に来てくださっている教育実習生の先生方の授業でも、小さなホワイトボードが活躍しています。

生徒の皆さんが、大きな集団の中でも胸を張って自分の力を発揮できるよう、今後も仕掛けていこうと



〔高校出前授業で車椅子介護体験〕

作戦を練っています。

## 生徒会執行部とのお話(②)

生徒会執行部の皆さんと第二回目の懇談を行いました。私は、今の高須中学校で特にもっと力を発揮して欲しいと思っているのが、「部活動」と「生徒会執行部」です。ですから、この学校だよりでもこの2つのことについては、かなり取り上げてきたつもりです。生徒会執行部との懇談は、生徒の皆さんの考えを聞くとともに、生徒会執行部を激励するという目的もあります。自分が覚悟を決めて立候補し、選挙で選ばれた以上、三役はその仕事に対してベストを尽くさなければなりません。会長より指名され、委員長・副委員長を引き受けた以上、執行部の皆さんはがんばらなければなりません。

懇談の最初は、必ず学校の課題をあげてもらいます。そして、これは比較的、簡単にあがってきます。次に「その課題に対して、生徒会執行部としてどう取り組もうと思っているの。」ときくと、執行部の皆さんは結構ドギマギしています。でもやっぱり力をもっている本校の執行部の生徒たちは、一生懸命考えて答えてくれます。

生徒会執行部は生徒会行事を行うことだけに存在しているわけではありません。よい環境の中で、皆が安心して勉強できる学校を作ることが目標に、日頃の委員会活動をきちんと行うことが基本だと考えます。ですから、他人事のように課題だけあげる事は、生徒会執行部としては合格点をつけることはできません。先生方とともに、自らよりよい学校をめざして取り組むことが大切です。

そんな難しいことを要求されるとわかっていながら、生徒会執行部の皆さんは私と話すことをそんなに嫌がりません。今回は、3年生・会長の本田君、学習委員長の林田さん、生活委員長の馬場さん、2年生・生活副委員長の姫野君、前回に続き秋山君が来室しました。それぞれ本校の課題をあげてもらいましたが、想像以上に皆さん厳しくとらえています。私は、自分たちでは気づいていない本校のよさを紹介しながら、あがった課題にきちんと取り組むことをお願いしました。また、生徒総会での要望事項をもとに、高須中学校のルール(決まり)についても一緒に考えました。

これからも、生徒会執行部が、行事だけではなく、日頃から活躍してくれることを最大限支えていきたいと思えます。



〔生徒総会での一場面〕

### <保護者の皆様へお礼とお願い>

1学期の間、本校の教育活動にご支援をいただき、本当にありがとうございました。「日常の学校生活を大切に」し、「子どもたちのよさを引き出す」ことを重点に、今後も取り組んでいきます。課題はたくさんありますが、2学期以降も、変わらぬご支援をお願いいたします。

さあ、夏休みです。学期の間もそうですが、特に夏休みは子どもたちは「地域の子どもたち」です。子どもたちには「まず、自分の身は、自分で守る。そして他の人も守る。」と話してあります。どうか子どもたちが、不幸な事件や事故に巻き込まれないよう、地域での見守りや声かけをお願いします。